

# あだたら

## 第六十四回定期総会

### 書面決議、 集計途中です

(仮)事務局

今年度の第六十四回定期総会は、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面決議となりました。今度の総会では役員改選、会則の一部変更もあり、ぜひ集まって頂いての開催を考えていましたが、福島県内での感染者の急激な増加があり、書面決議となりました。

した。ギリギリまで総会実施で考えていて、書面決議の書類準備などが遅れ、書類送付が二十七日となり、連休とも重なり会員の皆さんからの「書面決議書」が集まっておりません。五月例会では結果お知らせできないこと、ご了承下さい。

第390号  
発行所 町会  
松山市山部  
あだたら集  
編

## 湯川溪谷登山道下見

報告 (仮) 事務局

四月二十三日(金)  
湯川溪谷下見。一番気になるのは二月十三日の地震の被害だ。登山道入口入って直ぐ、おそらく道に溜まる水抜きの為か、土手に穴明けたり、道に溝掘ったりした跡五、六か所見付けた。穴通っていないので未完成の様だ。道にはカタクリ、ショウジョウバカマ。三階滝分岐下の倒木、昨年より更に沈んだ、まだ

潜れる。その上に、今にも落ちそうな石がある。登山道整備本番の時に落とした方が良いと言う話だ。屏風岩手前の衝立岩、□□さんは打ち込まれたハーケン写真撮影していた。□□さんが高校生の頃のものと同じ。屏風岩向の棧道は取り外したまま、岩壁に打ち込んで有る釘に乘らなければならぬが、山の会

●編集部連絡先  
二本松市部内1-5-15  
0243(22)4245  
Fax可 渡辺 正

だから慣れたものだ。天狗岩下橋は、昨年から架橋無し、「飛び石渡り」になっているが今回も問題なし。その上の倒木もまだ潜れる。対策はした方がよい。

天狗岩上橋は健在だった。荒竜岩下橋も健在。荒竜岩橋は流出、アルミ梯子利用した橋材流出していたが、川からは引き上げておいた。荒竜岩上橋も健在。その上の残雪で集合写真。更に登って精錬所跡で昼食。□□さんの話では、登山道もっと洗練所の奥廻っていたという、昔の地図はそういうになっているという。



10時29分、屏風岩で休憩



落橋している、⑤荒竜岩橋



11時43分、精錬所跡下の雪田



落橋している、⑦天狗庭橋



14時57分、無事下山、

昼食後天狗の庭橋まで登って確認、流出していた。橋材は残っている、橋を分解して、架け直せば良い。

二月十三日の地震の被害は確認出来なかった。登山道整備は流出した二箇所の橋の架け直しと屏風岩向の棧

橋架け直しが主な作業となる。

湯川溪谷の、一橋配置図は、三頁に掲載。



# 茨城県大田原市・花瓶山

四月九日(金) 報告 □□□



12時8分、花瓶山山頂、

午前八時大壇のグリーンセンター集合。東北道に乗った。白河ICを出て白坂方面へ、県道一八四、一八三を経て国道二九四へ向かう。途中千本桜を発見、国道二九四に入って栃木県境には「境の明神」。更に進んでこげ茶色看板のセブン

イレブン「那須伊王野店」を過ぎて直ぐの「道の駅・東山道伊王野茶屋」から、左折して「県道二七、那須黒羽茂木線」に入った。暫く走って「両郷」交差点を左折、トンネルで峠を越えて、更に南下、雲蔵寺という大きなお寺の前を通っ

て、更に南下。「須佐木」交差点を左折して県道十三号線太子黒羽線に入り明神トンネルを抜けて、「如来」から左折、狭い道が更に狭くなった所に駐車場があった。が、道は更に細くなるが奥へと続く、車一台がやるとの幅。ダムが現れて、更には奥へと続く、ダムの上には所々すれ違う場所出ている。有り難いことに行きも帰りも対向車には出会わなかった。やがて五台ほどの駐車車両が現れ、奥へと続く道はゲートで塞がれていた。ここが、「うつほ沢出合」らしかった。しかし此処まで運転してくられた山口さん、一度も迷わなかった、ナビ上手に使用こなされている。ここまでの記事は、私覚えて等居ないので、グーグルマップで追いつながら書いた。

十時五分登山口到着、ここは「向山」からの下山口でもある。今回は先ず花瓶山に登り向山経由で下る周回コースだ。十時十分ゲートを抜けて林道歩き始めた。歩き始めて直ぐ、黄色の「エンゴサク」見付けた。霞ヶ城公園のものより大きく、だいたい色が黄色だ、帰宅して調べたら「ミヤマケマン」だった。私の大好きな「キクザキイチゲ」もあちこちで咲いている。溪流沿いなので、緑色凝灰岩(グリーンタフ)の層が見られてとても楽しい。マム



14時50分、向山山頂、白河からの女性達も一緒に

シグサも一杯あるし、スミレは穀山スミレが多い。カタクリも所々で見られた。ヤマブキも咲いている、春の花一斉開花だ、矢張り関東地方だ。山口さんは「タラノメ」採取に夢中だ。「一十分、花瓶沢/花瓶山の林道歩き/登りだ。登り口は「ワラビの産地」、女性達は夢中で摘んでいる。稜線までの登りは一回休んだが三十分程度、僧侶台への登りに似た沢の道だ。十一時四十六分には稜線到着。雑木林の中なので、視界は開けていないし、日

射しも無い。弁当食べられるような広場も無い。太郎ブナ次郎ブナの辺りは開けているかも、と言う事で少し北上、伐採されて明るい尾根のすつと向こうにブナが見えたが遠い。このあたり足下には、あちこちにとっても綺麗な「イワウチワ」の群落。とにかく日影なので、山頂に行けば少しは日射しがあるかと言う事で、花瓶山頂に戻った。途中で振り返ると左後ろ奥にパラボラアンテナ、展望台屋根も、八溝山頂と言う事だった。十二時八分花瓶山山頂。ここで白河から来たという



向山山頂下のイワウチワ

女性二人と合流。伐採されて明るい場所に出て、昼食。伐採直後なので眺め良く、日当たり良く、少し急だったが、最高だった。さてここからは「向山」へ向けて下山、の筈が迷ってしまった。YAMAの地図だと、花瓶山山頂から一度南下して向山への尾根に入る。その地図の儘少し南下したが、どうもおかしい。沢に下りたりしたが、登り返してみたら、山頂から直接向山への尾根道が出ていた。山頂にその道標があった。見落としていたのだ。後は一直線に南下した。一時間ほど歩いて、十四時五十分、向山山頂着。白河からの女性にも入って首って写真撮影した。山頂直下からイワウチワの群落が現れた。畑の中歩いて居るようなものだ。遠くには山桜の花が、赤い若葉添えて、とても綺麗に見えていた。下り初めて三十分ほどで登山口到着。イワウチワ畑は登山口の直ぐ上から始まっている

た。イワウチワだけなら直接向山に向かった方がよい。十五時二十一分到着、出発が十時十分だったので道迷いを含めて五時間十分ほど掛かってしまった。うつほ沢の駐車場、車は三台になっていた。帰路、雲蔵寺にお参り、道の駅・東山道伊王野茶屋でトイレ休憩、「陸奥の国」にもお参りして「陸奥の国」に戻り、白坂工業団地の「千本桜」にも立ち寄り、高速道に入ってから、陸奥で最初に見える山が安達太良山である事確認して二本松に戻った。久しぶりの関東地方の山、花の咲き具合からも久し振りに春の早い南の方の山に行ったと言う満足感があった。山口さん長時間の運転ありがとうございました。

◆◆◆編集後記◆◆◆  
三九〇号

- ◆新型コロナウイルスの感染、福島県内の感染者増加ものすごい。それでも山歩きは「濃厚接触」外す事出来るので、大事にしたい。十六日(日)の山開きパトロール、ぜひご参加下さい。
- ◆今年は春が早かった。霞ヶ城公園三の丸のミズバシヨウ「三月二十五日」には開花していた。
- ◆個人山行の記事下さい。メールだと有り難いのですが、FAXも受信できます。



四月二十六日(月)

# 霊山で白いカモシカ

報告 □□□



四月二十六日(月)霊山で、白いカモシカに遭遇しました。霊山の登山口は、国道一一五号線から入った霊山子ども村近くと、霊山閣跡から湧水の里キャンプ場の三方所がある。霊山には、ここ数年、夫婦で四月上旬のユキワリソウ、五月の山開き、十一月の紅葉時には登って、この日はキャンプ場から登山開始。このコースはクサリ場、階段の急登が有り、登山者が少なく、好きなコースです。以前、不動岩近くの鉄パイプの片棧橋のところまで下っていると、夕方近くであり下ってくる登山者はいないと思っていたら、コト、コトと渡ってくる音が、カモシカでした(普通の色)。カモシカもビックリしたのか、人がいたので橋を渡らず戻っていきました。今年はおらず、ここでお湯を沸かし昼食とする。下りは日枝神社跡から霊山閣方面に向かって下山する。途中から湧水の里のコースに入る。四月三日にこのコースから不動岩方面に行こうとしたが、倒木と橋の修理を七、八人で作業をしており通れず、ユキワリソウを見ることはできなかった。キャンプ場の上で合流し、東屋を過ぎて少し下ったところに白いカモシカが山桜の若葉を食べていました。じっとこちらを見ていたので、岩の上を腰を下ろし写真を撮りました。さてコロナ禍で、今年の霊山の山開きは、迷っています。

## 元会員 □□□さん、ご逝去

報告 編集部



三月三十一日、元会員の□□□さんが亡くなられました。八十八歳でした。□□□さんが入会されたのは、会設立二年目の昭和三十四

年、副会長に就任。昭和四十七年まで十四年間、役員を務められました。(二〇〇八年十一月□□□さん作成の「会員名簿の変遷」による)。介護施設に入所されてからは、ご本人との連絡も取れず、ご家族との話し合いで昨年九月に退会されました。写真は二〇〇八年九月二十八日、五〇周年記念集中登山にて。



2009(H21)年5月6日、□□□さんの、喜寿祝賀会

### 湯川溪谷の落橋状況

- ⑤ 荒電岩橋 → 落橋
  - ⑦ 天狗の庭橋 → 落橋
  - ⑩ 屏風岩向の棧橋
- ↓ 昨春秋に取り外し



湯川溪谷 橋の配置図